



EUROPEAN MOBILITY WEEK

16-22 SEPTEMBER 2025

今年のテーマ:みんなのための移動

みんなのための移動とは、収入、居住地、性別、能力に関わらず、誰もが利用可能で、アクセスしやすく、手頃な価格で、安全かつ持続可能な交通手段を利用できることを意味します。しかし、多くの人々が高額な交通費や交通手段の選択肢の少なさといった障壁に直面しており、仕事、教育、そして生活必需サービスへのアクセスが制限されています。これは「移動貧困」と呼ばれています。

そこで、2025年、ヨーロッパモビリティウィークでは、さまざまな移動手段を再考し、みんなの移動の確保を呼びかけます！



1. みんなのためのデザイン

適切に設計されたモビリティシステムは、すべての人に恩恵をもたらします。綿密に計画されたサービス、乗物、インフラ、そしてコミュニケーションは、すべての利用者、特に身体、感覚、認知に障がいのある人々にとって役立ちます。

物理的な障壁を排除:モビリティシステムの乗物は、誰もが利用できるようにする必要があります。これには、公共交通機関、ライドシェア、オンデマンド交通、シェアリング交通が含まれます。駅、停留所、モビリティハブ、歩道、自転車道、その他の交通インフラも同様です。スロープ、床の質感、標識、照明、表面、寸法、排水設備などを検討してください。

明確なコミュニケーション:シンプルでわかりやすい標識、ルート案内、時刻表、ルートプランナーを使用します。一部の人にとって分かりにくい、過度に詳細な標識は避けてください。感覚障害や認知障害のある方にも配慮し、明確でシンプル、かつ一貫性のある言葉遣いとシンボルを採用してください。

デジタルアクセス:チケット購入、旅程計画、リアルタイム情報など、利用者が親しみやすいデジタルツールを提供します。デジタルが苦手な人が使えないことがないように、利用者をサポートします。

安全で安心:物理的なインフラストラクチャを改善し（適切な照明など）、デジタルサービスがGDPR ※に準拠していることを確認して、セキュリティを強化します。※GDPR…EUの一般データ保護規則

2. 多様性、手頃な価格、信頼性

真に包括的なモビリティシステムは、あらゆるコミュニティに多様で信頼性が高く、手頃な交通手段の選択肢を提供します。

多様性:多様な交通サービスと交通手段、そしてシームレスな接続を提供することで、アクセシビリティを確保します。固定ルートの公共交通機関、シェアリングサービス、相乗り、オンデマンド交通、徒歩、自転車といった交通手段を統合・促進し、様々な移動ニーズに最適な選択肢を提供します。人口密度の高い都市部であれ、遠隔地や分散したコミュニティであれ、地域の状況に適した交通手段を見つけ、様々な移動手段が互いに補完し合うことで、利用可能性と普及率を向上させ、移動貧困を減らします。

手頃な価格を維持:移動手段への平等なアクセスを確保し、個人や家族の経済的負担を軽減するための様々な対策を検討、検証、実施します。行政機関と交通事業者間の協力を強化し、構造的割引、財政的インセンティブ、補助金・支援、モビリティ予算、連帯価格設定、コミュニティバイクのリースなどの制度を促進します。

常に信頼できる:信頼性の高いサービスと明確でリアルタイムの情報を提供して、人々が最も効率的で持続可能な移動手段を選択できるようにします。



3. コミュニティ全体の参画

移動の経験は、人によって異なります。すべての利害関係者を巻き込むことで、真のニーズを反映した解決策を確実に提供できます。

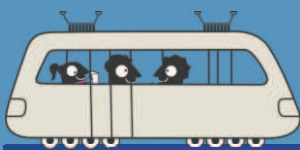
新しいアイデアの協働:異なるセクター間の協働のための場と機会を創出し、公共セクターが、新しいアイデアを実現・支援するための触媒として機能します。SCF※は、持続可能なモビリティのための革新的な地域ソリューションを支援し、奨励します。

※…EUの社会気候基金

地域の状況、地域のニーズ:より包括的な移動の解決策を促進するには、参加、協議、共創、そして計画策定において包括的なアプローチを採用する必要があります。

近隣住民会、代表団体、その他の組織化された市民社会団体やコミュニティ団体は、交通貧困と移動の脆弱性の解消に取り組む上で、行政機関や交通事業者の協力者であることを心に留めておきましょう。

受容性:持続可能なモビリティ サービス、ソリューション、オプションがすべての人に歓迎され、受け入れられるよう、多様な社会的、文化的規範や好みを考慮します。



4. 地方、地域、大都市

移動は行政上の境界で止まるべきではありません。異なる地域間での効果的な協力により、すべての人にとってシームレスな移動が確保されます。

連携:人々の移動手段の選択に対応するため、小規模都市、地域、近隣行政機関間の連携アプローチを模索する。リソースと解決策を最大限に活用するため、移動パターン、サービス提供場所、そしてそれぞれの行政機関の境界を超えたサービスの利用可能性を検討する。

機能的な都市部とその先:機能的な都市部の観点からモビリティシステムを計画・管理し、より強固で回復力のあるシステムを構築します。

都市中心部と都市周辺地域を効果的に結ぶため、マルチモーダル性とインフラの統合を優先します。

通勤だけでなく、通院などケアの移動に関連する複雑なパターンや、地方や小規模コミュニティに住む人々も含め、彼らのニーズに配慮したモビリティパターンを分析することも忘れてはなりません。

